



## 2020年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月2日

上場会社名 カネコ種苗株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 1376 URL <http://www.kanekoseeds.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金子 昌彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部門、コンプライアンス・IT推進担当 (氏名) 長谷 浩克 TEL 027-251-1619  
 四半期報告書提出予定日 2020年4月9日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年5月期第3四半期の連結業績（2019年6月1日～2020年2月29日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年5月期第3四半期	36,165	△0.2	390	△24.6	483	△19.8	335	△15.6
2019年5月期第3四半期	36,241	1.1	518	5.2	602	△0.2	398	9.2

(注) 包括利益 2020年5月期第3四半期 336百万円 (△16.7%) 2019年5月期第3四半期 403百万円 (△28.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年5月期第3四半期	28.69	—
2019年5月期第3四半期	33.90	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年5月期第3四半期	38,073	19,521	51.3	1,673.24
2019年5月期	45,526	19,619	43.1	1,671.22

(参考) 自己資本 2020年5月期第3四半期 19,521百万円 2019年5月期 19,618百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年5月期	—	11.00	—	17.00	28.00
2020年5月期	—	11.00	—	—	—
2020年5月期（予想）	—	—	—	17.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年5月期の連結業績予想（2019年6月1日～2020年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,500	△0.2	1,500	△16.0	1,600	△15.7	1,100	△14.3	94.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年5月期3Q	11,772,626株	2019年5月期	11,772,626株
② 期末自己株式数	2020年5月期3Q	105,916株	2019年5月期	33,327株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年5月期3Q	11,708,265株	2019年5月期3Q	11,739,694株

(注) 期末自己株式数は、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式（2020年5月期3Q 72,400株、2019年5月期 一株）が含まれております。また、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（2020年5月期3Q 30,930株、2019年5月期3Q 一株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年6月1日～2020年2月29日)におけるわが国経済は、引続き雇用・所得環境の改善がみられ、影響が懸念された米中貿易摩擦や英国の合意なきEU離脱リスクが低下するなど、プラス要因があったものの、企業収益が製造業中心に弱含んでいることや、消費税率引上げ後の消費者マインドの冷え込み、加えて、新型コロナウイルス感染症が経済にマイナスのインパクトを与えるなど、不安要素が多発する状況となっております。

国内農業の状況は、少子高齢化による食料消費の減少や農家の後継者不足等の従前からの課題に加え、初夏の日照不足や大型台風の襲来による農作物への被害、また、暖冬により青果物が供給増加となったものの、新型コロナウイルス感染症による訪日客や外食の減少により業務・加工用需要が減少するなど、供給・需要両面の影響で青果安となり、農家経営を圧迫する状況となりました。

このような状況のなか当社グループの業績は、種苗事業が低調に推移したことなどから、売上高361億65百万円で前年同期比76百万円(0.2%)の減収となり、利益面でも、営業利益3億90百万円で前年同期比1億27百万円(24.6%)減、経常利益は4億83百万円で前年同期比1億19百万円(19.8%)減、親会社株主に帰属する四半期純利益3億35百万円で前年同期比62百万円(15.6%)減となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度第4四半期より、花き事業と農材事業に係る物流費用の配賦方法を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の配賦方法で算出した数値で比較しております。詳細は、P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報) II 当第3四半期連結累計期間 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

#### 種苗事業

種苗事業においては、牧草関係で飼料用作物種子やラグビーワールドカップの影響によるスポーツターフ用芝種子が販売増となり、野菜種子関係でカボチャ種子の輸出が伸長したものの、ニンジン種子の輸出、タマネギ種子は輸出・国内販売ともに低迷し、売上高51億97百万円で前年同期比0.7%減収となりました。利益面でも、種子生産委託先である新興国の人件費の上昇にスライドして種子生産コストが上昇したことや研究開発費の増加により、セグメント利益5億23百万円で前年同期比16.4%減となりました。

#### 花き事業

花き事業においては、提案型セールスが功を奏したことや苗物の拡販による営業状況の好転が一部でみられたものの、大手チェーン店の資本業務提携に伴い販売ルートが他社へ移ったことや、プライベートブランド化による販売減などにより、売上高39億70百万円で前年同期比3.4%減収となりました。利益面では、業務の効率化に努めたことなどから、セグメント損失2億44百万円(前年同期のセグメント損失は2億84百万円)で損失は縮小いたしました。

なお、当事業は春に需要期を迎えることに伴い、第4四半期に売上高及び利益が集中的に計上される傾向があります。例年第3四半期まではセグメント利益はマイナスであります。通期では当該マイナスは解消されております。

#### 農材事業

農材事業においては、害虫の発生が少なかったことにより殺虫剤の販売が減少したものの、暖冬の影響で農作業の進捗が早まり農薬に対し前倒し需要が発生したことや、オリジナル被覆肥料の普及による販売増などにより、売上高163億56百万円で前年同期比1.8%増収となり、利益面でも、セグメント利益3億61百万円で前年同期比4.0%増となりました。

#### 施設材事業

施設材事業においては、農業用施設に対する台風復旧需要により関東地区で販売が増加したものの、養液栽培プラント関係の受注減や、前期東海地区で発生した台風復旧需要の反動減、加えて暖冬により保温資材の販売が減少したことから、売上高106億41百万円で前年同期比1.7%減収となり、利益面でも、セグメント利益3億17百万円で前年同期比8.0%減となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における「資産の部」の残高は、380億73百万円となり、前連結会計年度末と比較して74億53百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

また、「負債の部」の残高は、185億51百万円となり、前連結会計年度末と比較して73億55百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金の減少によるものであります。

なお、「資産の部」における受取手形及び売掛金の減少、また、「負債の部」における支払手形及び買掛金の減少は、当社グループの事業が主に第4四半期に繁忙期を迎えることに伴うものであり、毎期同様の状況となっております。

「純資産の部」の残高は、195億21百万円となり、前連結会計年度末と比較して微減となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前回発表予想の達成が困難となったため、業績予想を下表のとおり修正いたします。

主な要因は、第4四半期以降、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国際間輸送が停滞している影響が種子分野にも及び、野菜種子の輸出が減少することや、第3四半期までの野菜種子の販売低迷や生産コスト上昇による採算性の低下、施設材事業において、養液栽培プラントの完工売上高が当初予想を下回ること、加えて、花き事業におけるホームユース向け野菜苗・花苗が、小売店の店頭販売不振の影響を受けて販売が伸び悩むことなどが予想されることに伴うものであります。

2020年5月期通期連結業績予想数値

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
前回発表予想 (A)	百万円 59,500	百万円 1,800	百万円 1,900	百万円 1,350	円	銭
今回修正予想 (B)	58,500	1,500	1,600	1,100	94	29
増減額(B)－(A)	△1,000	△300	△300	△250	—	—
増減率 (%)	△1.7	△16.7	△15.8	△18.5	—	—
(ご参考)前年実績 (2019年5月期)	58,592	1,785	1,899	1,284	109	39

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,906,928	3,764,830
受取手形及び売掛金	21,731,978	14,746,115
商品	8,203,837	9,238,726
その他	1,501,244	1,086,782
貸倒引当金	△22,075	△15,048
流動資産合計	36,321,912	28,821,406
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,953,976	4,210,675
その他(純額)	2,477,664	2,277,999
有形固定資産合計	6,431,641	6,488,674
無形固定資産		
	81,771	91,838
投資その他の資産		
その他	2,699,902	2,695,016
貸倒引当金	△8,911	△23,701
投資その他の資産合計	2,690,990	2,671,315
固定資産合計	9,204,403	9,251,828
資産合計	45,526,315	38,073,235
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,593,327	15,102,390
短期借入金	—	899,751
未払法人税等	309,674	2,834
その他	1,279,621	798,909
流動負債合計	24,182,623	16,803,887
固定負債		
退職給付に係る負債	1,401,062	1,420,181
役員退職慰労引当金	113,650	—
役員株式給付引当金	—	9,270
その他	209,907	318,459
固定負債合計	1,724,619	1,747,910
負債合計	25,907,242	18,551,797
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,491,267	1,491,267
資本剰余金	1,765,224	1,765,224
利益剰余金	15,810,824	15,818,075
自己株式	△24,318	△129,347
株主資本合計	19,042,997	18,945,218
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	693,164	671,047
為替換算調整勘定	△46,304	△39,623
退職給付に係る調整累計額	△70,948	△55,383
その他の包括利益累計額合計	575,911	576,040
非支配株主持分	163	178
純資産合計	19,619,072	19,521,437
負債純資産合計	45,526,315	38,073,235

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
売上高	36,241,846	36,165,667
売上原価	30,218,286	30,178,412
売上総利益	6,023,560	5,987,254
販売費及び一般管理費	5,505,170	5,596,458
営業利益	518,389	390,796
営業外収益		
受取配当金	27,968	30,260
受取家賃	47,084	50,822
その他	25,950	30,881
営業外収益合計	101,003	111,964
営業外費用		
支払利息	9,248	9,599
為替差損	6,197	9,809
その他	1,031	53
営業外費用合計	16,476	19,462
経常利益	602,916	483,298
特別利益		
固定資産売却益	—	42,412
投資有価証券売却益	6	774
特別利益合計	6	43,186
特別損失		
固定資産処分損	11,453	29,895
特別損失合計	11,453	29,895
税金等調整前四半期純利益	591,469	496,590
法人税等	193,459	160,626
四半期純利益	398,010	335,963
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	398,010	335,949

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益	398,010	335,963
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,218	△22,117
為替換算調整勘定	7,704	6,681
退職給付に係る調整額	24,036	15,565
その他の包括利益合計	5,522	128
四半期包括利益	403,532	336,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	403,532	336,071
非支配株主に係る四半期包括利益	—	21



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(取締役を対象とした株式給付信託の導入)

当社は、2019年8月27日開催の第72回定時株主総会決議に基づき、当社の取締役（社外取締役を除く。以下、同じ。）に対する株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust））」（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

本制度は、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にすることで、中長期的な企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

本制度に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

## (1) 取引の概要

本制度は、当社が抛出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、取締役に対して当社が定める役員株式給付規程にしたがって、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

## (2) 信託に残存する自社の株式

当社は、本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第3四半期連結会計期間末の当該自己株式の帳簿価額は104,799千円、株式数は72,400株であります。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間（自2018年6月1日 至2019年2月28日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	5,235,707	4,112,153	16,067,132	10,826,853	36,241,846
セグメント間の内部売上高又は振替高	60,626	1,155	1	2,759	64,543
計	5,296,333	4,113,308	16,067,133	10,829,613	36,306,389
セグメント利益又は損失(△)	626,977	△284,393	347,912	345,431	1,035,927

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,035,927
全社費用(注)	△517,538
四半期連結損益計算書の営業利益	518,389

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2019年6月1日 至2020年2月29日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗 事業	花き 事業	農材 事業	施設材 事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	5,197,184	3,970,782	16,356,091	10,641,609	36,165,667
セグメント間の内部売上高又は振替高	65,934	1,010	34	1,390	68,370
計	5,263,119	3,971,793	16,356,125	10,642,999	36,234,037
セグメント利益又は損失(△)	523,942	△244,361	361,711	317,798	959,091

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	959,091
全社費用(注)	△568,294
四半期連結損益計算書の営業利益	390,796

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメント費用の配賦方法の見直し)

前連結会計年度第4四半期より、セグメント別の損益をより適切に反映させるため、花き事業と農材事業に係る物流費用の配賦方法の見直しを行いました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、見直し後の配賦方法に基づいて作成したものを開示しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。